

新宮山彦ぐるーぷ第2156回

行仙宿小屋の毛布干しと継の窟訪問  
(第一回刈峰行から2000回目の行事)

◇実施日 11月28日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、生熊敏男、濱野兼吉、中前偉、児嶋道夫、大江加予子、西克、高階鈴子・美根子、植平修、志岐敬、梶野照雄 12名

毎年ゴールデンウィーク前と、この時期との年2回各小屋の毛布の天日干しを定例行事として行事計画に組み入れているので、当日の晴を祈っていた。数日前から天気予報とにらめっこして可否を判断した。予報では晴れるようだが、寒気が南下するらしいので降雪が心配で、冬用タイヤが必要かと思案していた。

今回はいつもご理解、ご協力を頂いている植平さんも参加される。植平さんは以前から継の窟に関心を持たれ、案内、同行を希望されており、今回やっとスケジュールが合い、参加されることになった。年初からずっと多忙が続く行事に参加できなかった志岐さんも、やっと落ち着いたようで久々の参加となった。

当日はいつものように浦向からR425に入り、白谷トンネル手前で四ノ川林道を進む。林道に入って少し進むと、昨夜降ったのか雪が所々に残っていた。今年もいよいよ、やっぱり来たかの思いで、雪を見るとワクワクする。

午前9時前、登山口に12名が集結し、沖崎より今日の作業項目

(杭の荷揚げ、毛布干し、水場の点検、継の窟訪問)の段取り・予定を説明する。



登山口で



杭を運ぶ



日陰に雪が

昨日、調べることがあって山彦の過去の行事を繙いていた。

前田勇一氏とのご縁から、南奥駆道の再興を引き継ぎ、昭和59年6月9日〜10日に千日刈峰行に着手した。この最初の刈峰行の行事回数が156回で、今日の行事が2156回、ちょうど2000回目の行事になる。37年間で2000回、年間54回の行事を続けてきたことになる。大きな節目となる日だ。

先輩方のご苦労に思いを馳せ、原点を思い、原点に戻る機会と捉えたい。この間に多くの出会いがあって、現在の活動もその出会いに支えられている。3000回に向けて頑張ろうではないか。

高階鈴子さんから「記念すべき大きな節目の今日、参加できて嬉しい」との言葉があった。

9時10分、生熊さん運転のモノレールに荷物を積み、11名は

歩いて登り始めた。川島前代表急逝現場で手を合わせ、モノレール終点から杭を運び上げる。杭は送電線下の登山道補修地点にデポして行仙宿に到着、午前中は全員で毛布干しにかけ、昼食後、小屋残留組、水場点検組、継の窟訪問組に分かれて行動することを決める。



雪が残る屋根



毛布の天日干し



火を囲んで休憩

午前10時過ぎ、毛布干しを始める。管理棟、小屋から毛布を外に出す者、毛布を干すロープをセッティングする者、ロープの弛みを止める支柱を作る者と、それぞれ手早い。いつものように屋根の上にも広げようとハシゴを架けて登ってみたが、雪が残っていて屋根上はあきらめた。

経験豊富な12名が作業したので、40分程ですべての毛布がロープに架けられた。

お天気もよく、寒さもそれほどではないので管理棟前で火を囲み休憩する。午後からの水場点検は児嶋、濱野、西の3名、継の窟へ

は植平、梶野、志岐、高階鈴の4名、残りの5名が小屋残留と確認する。休憩の流れのまま、早めの昼食とした。



水場点検組



継の窟へ降りる



継の窟

12時頃、まず水場点検組が動き出す。児嶋さんは先日青木君から寄贈いただいたエンジンブローを手に、他の2名も熊手やロープを持って出発、続いて継の窟訪問組もロープを一本持って出発していった。

小屋残留組は、小屋と管理棟の整理・清掃、三個ある雨水槽の内、玄関横とトイレ横の水槽を空にした。東側の水槽は12月の迎春準備の際に水が必要になるのでそのままにした。

水槽にはすでに薄い氷が張っていたが、昨年12月20日の迎春準備作業の際は玄関横の水槽が底まで凍りついて、電気ドリルを使っても取り除くのに苦労したことが思い出され、今回は早めに水を抜いた。広げて干してある毛布を点検し、汚れの酷いものや破損している物などを処分のため持ち帰るようにした。

生熊さんは毛布を干すロープの支柱用に、余っている幟のポールを加工してくださったので、次回からは支柱用に木を切る必要が無くなった。



水槽の水を抜く



ブロワーで清掃



枕も天日干し

午後1時頃から毛布の回収を始めた。暫くして水場点検組が帰ってきた。児嶋さんはブロワーを持って水場まで降り、積もった落葉をきれいに吹き飛ばしてき、行仙宿に戻った後も小屋周りの落葉掃除に専念される。えらくブロワーが気に入ったようだ。濱野、西の2名は毛布回収に加わる。

水場迄の道に異常は無いが、水溜に水は無く落ちる水もポタポタ程度で水場での給水はできないとのことだった。水場上にトラロープを張って安全確保を行ったそうだ。

程なく継の窟組も帰ってきた。2時間はかかると思っていたが、1時間15分程で戻ってきた。奥駈道から降りる斜面は積雪があったが、雪の無かった先月と比べるとあまり滑ることがなかったそう

で、地面が凍り付いているのかも知れないとのことだった。初訪問の植平、志岐両氏も感激と驚きの様子だった。

全員で毛布を小屋内に入れて、畳んで棚に収納した。終了後、お湯を沸かしてコーヒ―を淹れて休憩し、持ち降ろす不用品を持って下山した。



毛布を棚に戻す



本日の参加者



下山完了

南奥駈道の再興に着手してから37年間、回数2000回、記録は全て残っている。すごいことだ。

色々な方面から高評価を頂いた。有難いことだと思う。この間にはお二人の尊い犠牲もあった。

今後も「無理せず安全第一」を強く念頭に置いて、肅々と3000回を目指したい。

先日NHKから電話があり、12月4日(土)のラジオ番組「石丸謙二郎の山カフェ」に出演してほしいと依頼があった。

橋尾歌子さんからの推薦があつたようだ。橋尾さんは3年前、行仙宿に来られ、その後「それ行け避難小屋」という本にまとめて出版された。行仙宿小屋を高評価してくださっている。  
皆さん是非聞いてください。  
(記：沖崎)

## 行動タイム

補給路登山口 09：11↓10：09 行仙宿 14：30↓15：05 補給路登山口